

1. 技術体系の特徴

品目	家族労働力	品目・栽培型及び規模		経営・技術の特徴
白ねぎ	人 2	白ねぎ	a 60	1. 初夏播き、冬採り栽培 2. チェーンポット育苗 3. 収穫機、根切葉切皮むき機等の機械化体系導入 4. 個人選果・共同出荷
		経営耕地面積	水田 畑 200	
経営目標	1 農業総収入	6,398 千円	4 1日当たり農業所得	17,684 円
	2 農業経営費	4,170 千円	5 1人当たり年間労働時間	504 時間
	3 農業所得	2,228 千円		

2. 資本装備と減価償却費

	種類・規模	数量	型式・構造・能力	所 割	有 合	取得価格 千円	耐 用 年 数	年 償 却 額 千円
建物・施設	作業および収納舎	1	軽量鉄骨 60㎡	1	1	5,671	24	236
	農機具倉庫	1	軽量鉄骨 30㎡	1	1	2,835	24	118
	育苗ハウス	1	AP単棟ハウス 50㎡	1	1	4,967	10	497
	計					13,473		603
農機具	トラクター	1	30PS 140cm幅ロータリー装着	1	1	2,128	7	152
	ロータリー	1	乗用トラクター用、耕幅150cm	1	1	498	7	36
	管理機	1	6PS	1	1	278	7	20
	軽トラック	1	軽トラック	1	1	1,324	4	166
	動力噴霧器	1	可搬式5PS	1	1	184	4	23
	ねぎ類剪葉機	1	2.8PS	1/5	1	66	7	5
	ねぎ移植機(手動)	1	チェーンポット用	1/3	1	28	7	2
	ねぎ収穫機	1	自走式 1条掘り	1	1	2,911	7	208
	根切葉切皮むき機	1	一体型	1	1	1,115	7	80
コンプレッサー	1	7PS	1	1	320	7	23	
計					8,851		713	

3. 技術体系(白ねぎ)

(10a当たり人、時間)

作業の種類	栽培技術		作業体系				使用資材	技術の重要事項
	技術内容	作業時期	使用機械器具	組み作業人員	実作業時間	延べ作業時間		
(育苗)は種		4月中～5月中		2	4	8	チェーンポット80枚 専用培土 水稻育苗箱 下敷き紙 コート種子4.3万粒	1穴当り2粒播き
剪葉		6～7月	剪葉機	1	2	2		草丈20cm超の頃を目安に、12～15cm程度に葉を切りそろえる。
かん水		4月中～7月下		1	8	8		発芽まで乾燥させないように注意する。
病害虫防除		5月中～7月下	動力噴霧機	1	2	2		県病害虫防除基準による適正防除。
(本圃)耕耘整地		6月下～7月下	トラクター	1	4	4	堆肥 2t 石灰質資材 120kg	有機質の施用。 高温、多湿の時期には根腐れしやすいので、畑の周囲、畦づくりは排水対策を十分に行う。
施肥	基肥	6月下～7月下		2	2	4	10a当たり成分 N 17.8kg P2O5 15.0kg K2O 16.8kg	Nの分施割合 基肥70% 追肥30%
	追肥	9月上～12月上		2	2	4		
定植		8月上～8月中	定植機	2	3	6		栽植密度 畦幅80cm×株間3cm 10a当り 37,000本 45～50日育苗した苗を定植する(低温期は60日以上以上の苗とする)。 機械によるチェーンポット定植。
病害虫防除	薬剤散布	8月中～12月中	動力噴霧機	2	8	16	殺菌剤 殺虫剤	県病害虫防除基準による適正防除。
埋戻し		9月	鍬	2	2	4		定植後14～20日で1回目、その14～20日後に2回目を実施
土寄せ		10月中～11月中	管理機	1	4	4		埋戻し20～30日後に1回目、その20～30日後に2回目を実施。 病気予防として分岐部にかからないようにする。
止め土		12月上	管理機	2	2	4		収穫開始予定日の30日前に実施。 軟白部分と緑色の境界を明確にするため、分岐部までしっかりかける。
収穫		1月上～3月下	収穫機 軽トラック	2	20	40		
調製・出荷		1月上～3月下	根切葉切機 皮むき機 コンプレッサー 軽トラック	2	30	60		皮むき作業をスムーズに行うため、根元を切り落とさない程度に切る。
後片付け		4月上	軽トラック トラクター	1	2	2		
計					95	168		

